

びわ湖大津館 建物のご案内

●設計は、東京歌舞伎座や明治生命館等の設計で有名な
「岡田建築事務所（岡田信一郎創設）」



ホテル営業：

1934年（昭和9年）10月27日
～1998年（平成10年）8月24日

びわ湖大津館は、1934年（昭和9年）に外国人誘致の国策（鉄道省国際観光局）のもと、県内初の国際観光ホテル（旧琵琶湖ホテル本館）として建設されました。当時、日本は全国の有名観光地でこのようなホテルの建設を行いましたが、現存するものは当館を含めて極めて僅かです。

建物の構造は、鉄筋コンクリート地下1階、地上3階建て、洋風の内観と「桃山様式」と呼ばれる特徴的な和風の外観は、「琵琶湖」の風景や「古都大津」の風土に見事に調和しています。特に1階「桃山」は、その名にふさわしく桃山風の格天井になっており、当時は落ち着いた雰囲気気の食堂として使用されておりました。

営業当時は、『湖国の迎賓館』として昭和天皇を始め多くの皇族の方々、ヘレン・ケラー、川端康成など他分野の著名人が宿泊され、名実ともに県下随一の格式を持ったホテルでした。

1998年（平成10年）8月24日、半世紀以上に及ぶホテル営業に幕を下ろし、琵琶湖ホテルが浜大津に営業移転。その後、建物の取り壊しを惜しむ市民の声に応えた大津市が、柳が崎一帯を公園整備するとともに、建物の大規模な補強・改修工事を行いました。2000年（平成12年）9月には、「大津市指定有形文化財」に登録。そしてその後、2002年（平成14年）4月より多目的文化施設「びわ湖大津館」として新たに開館致しました。

現在、館内にはびわ湖が一望できるレストランやショップ、貸会議室・貸ホール、市民ギャラリーなどがあり、市民の集いの場として多くの方に利用されています。



1934年（昭和9年）10月	琵琶湖ホテル営業開始
1945年（昭和20年）9月	米進駐軍により接収
1998年（平成10年）8月	琵琶湖ホテル営業終了
2000年（平成12年）9月	大津市指定有形文化財登録
2002年（平成14年）4月	びわ湖大津館開館
2007年（平成19年）11月	経済産業省 近代産業遺産群認定



木製建具

1 階には、ホテル当時の木製の窓枠が残っています。また、「桃山」の木製建具には、共通の装飾である唐草文様が使用されており、1948 年（昭和 23 年）まで外窓として使用されていました。



匠の技 唐草飾り

建設当時、窓枠は木製で隅には唐草文様の透かし彫りがついていましたが、改修前にはほとんど残っておらず、唯一「桃山」に残されていた文様から、外側建具に唐草文様を復元することが出来ました。



「桃山」謎の小部屋

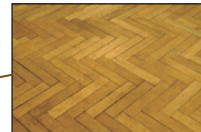
「桃山」は、当初食堂として使用されておりましたが、後にはコンサート会場等として使用されるようになりました。中に入るとすぐ、欄干のついた小部屋に気付かれることでしょう。この部屋は楽器演奏の為に使用されたという説がありますが、実際のところは定かではありません。

※桃山の見学をご希望の方はフロントまでお申し出ください。



照明器具

「桃山」の照明器具は建築当時のもので、改修工事では部品の取替えや修理を行いました。その灯りは現在もお、訪れる人々を温かく照らし続けています。



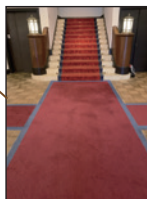
匠の技 寄木張り

ホテル時代に使われていた当時のカーペットを剥がすと、その下からは小さな木の板を組み合わせた美しい寄木張りが現れました。この素晴らしい職人の技を後世に引き継ぐ為、「桃山」やロビー等で補修・復元をしています。なお、客室からも 2 種類の木を組み合わせた寄木張りが見つかっています。



両替所の格子

1 階フロント横の真鍮で出来た格子部分は、外貨の両替所でした。かつての国際ホテルとしての面影を伝える貴重な設備の 1 つです。外国人観光客の楽しそうな声が、今も聞こえてくるような気がします。



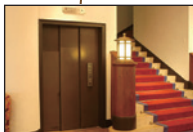
深紅のカーペット

1 階のロビーに敷かれたカーペットは、建築当時の写真や従業員の話を元に再現したもので、深紅にマリブルーの縁取りが施されていて見事なコントラストを表しています。



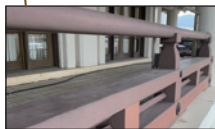
玄関扉

扉を縁取る真鍮の装飾金具は、長い歳月により色褪せておりましたが、全ての金具を外し「洗い」と呼ばれる修復再生技術により、かつての輝きを取り戻すことが出来ました。



エレベータ

1 階のロビーにあるエレベータは、1957 年（昭和 32 年）に設置されたものです。どことなく懐かしさのある停止階表示部分など、設置当時のまま補修して再利用しています。



檜皮色 (ひわだいろ) の手摺り

勾欄 (こうらん) と呼ばれる建物の外側の手摺りは、鮮やかな朱色と考えられていましたが、建築投資の状態に復元、改修を進める際に、檜皮色 (ひわだいろ) だったことが判明しました。銅板の赤銅色と調和された色づかいとなっています。



鬼瓦

正面玄関前で目を引く鬼瓦は、ひび割れ等が見つかったことで今回新たに市内の業者に依頼、製造されたものに取替えています。大津はかつて、瓦の産地として有名だったそうです。



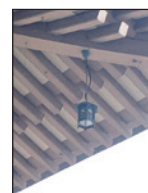
タイル張り

工事中に、勾欄の色と同様にタイル張りが発見されました。1 階の外側廊下を回廊のように巡っていたことを証明するもので、大変貴重な発見でした。現在、1 階北側回廊に復元されています。



緑青色の屋根

勾欄 (こうらん) が復元された色であるのに対し、屋根 2 千平方メートルは銅板でふき直す際にあえて、慣れ親しんだ緑青色にし、大屋根・小屋根ともに化学処理を施しています。



風鐸 (ふうたく)

風鐸は、ホテル時代には軒下の照明として使用されておりましたが、現存するものは 2 基しかなく、新たに 25 基を復元し、大屋根に吊り下げています。



匠の技 回廊の装飾

外側廊下の下部 (1 階から見上げると天井) は、型枠に詰め込んだモルタルを接合する「繰型出組 (くりかただくみ)」という技法で造られていましたが、改修工事を始めるまでは分かりませんでした。今日では、この技法は非常に難しいものとなっています。

2 階には、びわ湖が一望できる展望テラスがございます。
また、3 階には旧琵琶湖ホテル時代の思い出が詰まった展示室もございます。(見学無料)